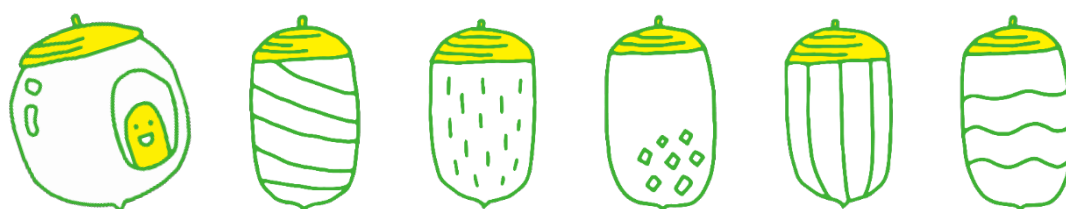


地域拠点施設検討委員会 素案 R6.2.15

P50（付録）～ 【差替分】

7. 付録



7. 付録

7-1. 各種ワークショップ・ヒアリングのまとめ

○住民ヒアリング

まずは地域リサーチをするため、町内のことに詳しい方や積極的に活動をされている方などにお声がけして、お話を伺って行きました。住民ヒアリングをしていく中で、主体的に活動する方や、町のことを大切に想う方が多くいることが分かりました。そして、まだまだ町には高いポテンシャルを秘めた方も居そうだとすることも段々と分かってきました。

- ・実施日時：第1回 2023年8月9日（水）～8月11日（金）
第2回 2023年8月28日（月）～8月30日（水）
第3回 2023年9月10日（日）
- ・参加者：38名



施設について

- 環境がよくて開放的な入りやすい学校にしてほしいけどセキュリティも気になる
- 地域拠点施設へのアクセスがよくなるといいな
- 小学校の隣にいる中学校の生徒も使えるような施設になるとよいかも
- 雨が降っても使える半屋外エリア
- 思春期の中学生の時に、須賀小を通過して体育館に行くのが恥ずかしい時もあった
- 夏はかえでの木陰が気持ちよかった
- かえでの根でグラウンドががたがたしていた思い出
- 図書室が暗かった思い出がある、明るい図書室になるといいな
- 目を引くような小学校になるといいな
- 開放的で風通しのよい心理的にもよい環境の学校に
- 子どもが落ち着ける場所
- 学童保育所の子どもも図書室の本を気軽に読めるようになるといい
- 緑が豊かにあって、寝転がったり木登りしたりできるような自然環境
- 簡単で気軽に使えるロビーやホワイエのようなスペース
- 宮代町の情報が分かりやすく知れる場所
- 子育て中の親子と触れ合える場所
- 福祉の理解が深まる場所
- 図書室の充実（子どものオアシス）
- 明るくてきれいなトイレ

学びの場

- 子どもたちが町に飛び出して、町を使って学べるようになるといい
- 子どもたちが調べてつくる郷土資料的なスペースがあるとよさそう

交流

- 保育園から小学校、中学校へと15年ほど幼馴染と一緒に過ごす環境が続くといいな
- 須賀小は子どもの数が少ないから、人間関係が固定化しやすい、新しい施設で多様な人間関係がつかれるとよさそう
- 親や知り合いが学校に集まって会える環境に（子どもたちは恥ずかしがっても喜ぶ子ども多いと思う）
- 様々な年齢、異なる成長段階にいる、あらゆる子どもたちが集まりやすい場所

あるといい機能

- 町をよくしたいと思うやる気ある小さなコミュニティはたくさんあるから、それらをまとめる役がいれば
- 素人でも一歩踏み出せる場所
- 自由に人が行き来できる仕組み（オンデマンド（乗合い）タクシーなど）

○公開シンポジウム「どんぐりとピアノ はじまり、はじまり会議」

これまでの地域リサーチと、小学校に残るエピソードを踏まえて、この事業について話し合っていくワークショップ名を「どんぐりとピアノ はじまり、はじまり会議」（通称：どんピ）と名付けました。地域にある資源（どんぐり）を参加者の皆で探し、新しい施設の未来（ピアノ）を考えていく話し合いの場（ワークショップ）となるように想いを込めています。

そのキックオフとして、公開シンポジウムを開催し、地域住民へ事業内容の周知を図りました。あわせて、学校と地域施設が複合化した県外の 2 事例についての紹介を行い、事業内容の具体的なイメージを持ってもらう機会としました。

- ・プログラム：
 - ・プロジェクト概要説明
 - ・事例紹介①（愛知県 新城市立作手小学校）
 - ・事例紹介②（北海道 安平町立早来学園）
 - ・有識者クロストーク
 - ・ミニワークショップ「これからの学校って、どんな場がいいだろう…」
- ・実施日時：2023年9月23日（土）13:00～16:30
- ・参加者：50名



学びの場

- 大人（親、地域住民）と子ども（児童、生徒、未就学児）が共に学び遊べる場所になるといい（学び直しの場）
- 大人、子ども、高齢者、障がい者の誰でも来て得意なことを教え合い、考えて学べる学校
- 世界の中で生き抜ける力を養う学校（知識だけでなく体験を通じて生きる力を身につける）
- 部屋にとらわれず、地域の場が教室になって、学校が地域ににじみ出すような場所（みんなで畑で特産物を育てたり、フェンスで囲わず道が学校の中にそのまま食い込んでいたり）
- 世の中の仕組みを実践するところ
- 個人の興味や好きなことを延ばせる場
- 世界で競える個人を育てる
- 自分が 80 歳になったときも勉強できる学校
- 学生が自分で考えて勉強をする場所
- 年寄りと学生が同じ場所で勉強できる学校
- 学校は地域の財産
- ワクワクする未来をつくれる場所
- 歴史を学べる場所
- 社会の縮図みたいな場所
- デジタルとアナログ（昔ながらの技術）のどちらも学べる場所

交流の場

- 学校を媒体に新旧一体のコミュニティ
- みんながまじりあう共創の一步
- 敷居が低い場所
- 家族以外の誰かに話を聞いてもらったり、子ども目線や大人目線で意見を言い合いたい
- 大人も子どもも対等である学校
- 人情味のある学校
- 屋内外を問わずみんなで遊べる空間
- 町で働いている人や町で作られているものを知れる場所、出会える場所
- 学校を家にする（家族みんなで学校にいて、家は夜にかえって寝るだけ）
- 「機会」と「出会い」にあふれている場所

居場所

- これからもずっと帰ってこられる場所
- いつでも気軽に年齢に関係なく誰でも立ち寄れる場所
- 楽しく一日を過ごせる場所
- リビングルームのような場所
- 子どもが学校に行きたいと思える楽しみが多くある場所
- 行っても行かなくてもいいところ
- 居心地の良い場所
- 自由に話せる雰囲気、誰でも使える規制のない環境
- 年齢を問わずみんなで集まれる場所

支え合う場

- 自分の考えを主張できて、まわりの人がサポートしてくれるような心理的な安全性が高い場所
- 自分の関心があるコトやモノを手助けしてくれる場所
- したいことの背中を押してもらえる場所
- 友達の輪づくりができる場所
- 心のよりどころ

○地域ワークショップ「どんぐりとピアノ はじまり、はじまり会議」(全3回)

基本計画の策定にあたり、地域住民や関係者等に事業への理解や関心を深めてもらうとともに、須賀小学校地域拠点移設に関するアイデアや意見等を話し合いました。また、話し合いを通じて、新たなつながりや活動のタネを生み出すことを目的として、全3回のワークショップを実施しました。

◇第1回 ミライの小学校で、何する?何する?

“自分のどんぐり(資源)”と“地域のどんぐり(資源)”を書き出して、それらをもとに“新しいピアノ(未来の活動や場)をつくっていくことを考え、その結果「新しい施設での活動」の可能性を探りました。

- ・プログラム：
 - ・シンポジウムのふりかえり
 - ・自己紹介(俺の求人票を作成・共有)
 - ・ワーク①「それぞれの「どんぐりとピアノ」をつくろう！」
 - ・ワーク②「Yes, and ゲーム」
 - ・ワーク③「「どんぐりとピアノ」を共有しよう」
- ・実施日時 : 2023年10月21日(土) 14:00~16:30
- ・参加者 : 62名



わたしのどんぐり/地域のどんぐり	⇒ 新しいピアノ（開設5年後のミライ）
------------------	---------------------

- DIYをやりたいが工具を揃えるのが大変 ⇒ 子どもが自ら知恵を出して何かをつくり出せるような場所がある
- 子ども同士でも世代間でも学び合いたい ⇒ 異年齢（子どもも大人も）で好きなことを学べるモールスクール（週1短時間）
- 獅子舞を復活したい ⇒ 内容を知っている敬老者がいるといい
- 和戸駅前の花壇に咲く花がきれい ⇒ みんなで育てる花壇、いつも花が咲いている
- 一緒に料理をしたりレシピを教えてください ⇒ 町に眠る人材から学べる場所がほしい
- 英会話をしたい ⇒ 宮代町在住の外国籍の方によるコミュニティガイドの育成（外国人向けも含めて）
国際コミュニケーションが取れる場所
- 3歳の子と太鼓を叩きたい ⇒ 音を思いっきり出せる場所で太鼓を叩きたい
- 子どもの遊び場がほしい（リアルな場） ⇒ プレーパークがあるといい
木を組んだり、ロープをつなげたり、焚火をしたり、ギターを弾いてくれたり、泥の山、穴掘り
- 新しいことをしたり、考えたりすることが好き ⇒ 何か商品をつくって販売する授業がある
- シロップづくりが楽しい ⇒ 得意料理を持ち寄ったビュッフェ
ものをあげますもらいます掲示板
- おしゃれやメイクが楽しい ⇒ 自分の得意なものを教える会
- 日陰があって、思いっきり遊べる公園がない ⇒ 木陰などの暑さ対策がたくさんあるといい
- 家具が好き、ものづくりが好き ⇒ 子どもでも簡単に家具が作れる子ども工作室
- おいしいお酒が好き、一日の締めはお酒 ⇒ 仕事帰りにちょっと飲める場所、気軽なビアバー
- 息子の知的好奇心や心を許せる友人 ⇒ 学年や学校で閉じずに子どもも大人も出会う環境
- 障がい児の理解をしてあげたい ⇒ 働く場所があり、認知が広がったらいい
- 野外活動が好き ⇒ 学校でキャンプできる機会がある
- 楽器を演奏したいけど家で音を出せない ⇒ ドラムセットやアンプが常設されているスタジオ
- ゲームが好き ⇒ 学校の中にゲーセン
(知育になるものだと親も安心)
- スケッチに行きたい ⇒ 絵になる場所をリストアップして共有できる
- 日本の手仕事に興味がある ⇒ 町民の家庭科室（梅干しや味噌づくり、季節の手仕事をみんなで）
- 林が好き ⇒ 校内に林が欲しい、週1回林の中で給食を食べる
- ママたちや、運動不足な人たちと楽しく動いてみたい ⇒ 草刈りイベントと農を掛け合わせ
刈った草も活用できたらいいな

◇第2回 ワクワクする場所、どんなの?どんなの?

「新しい施設での活動」の可能性を具体的な「場」や「空間」に落とし込んでいくために、9つのテーマ（図書・音楽・図工・家庭科・保健・校庭・学童・多目的ホール・フリースペース）を設定して話し合いました。少しずつ学校と地域が歩み寄り、共有できそうな場所について考えていきました。

- ・プログラム：・前回のふりかえり
・ワーク「9つのテーマに分かれて話し合おう！」
- ・実施日時：2023年11月11日（土）14:00～16:30
- ・参加者：50名



図書

- ・地域の人の選書コーナー
- ・本の後ろに一行感想カード
- ・子どもの古本をリサイクル、地域へ循環
- ・トークイベント（職業を知るきっかけ）
- ・本以外のことも質問できるエリア
- ・「今日は私が〇〇先生」コーナー
- ・グリラで読み聞かせライブ
- ・地域の方のお手製絵本を展示
- ・本を持ち出してピクニック
- ・にぎやかにしてもいい本のスペース、遊びと集中の共存

音楽

- ・どんぐりピアノの演奏、ディスプレイ
- ・地域に眠っている楽器の持ち寄り
- ・ドラムやアンプが常設の防音スタジオ
- ・屋外のオープンステージ
- ・学校のチャイムを変える
- ・星空コンサート
- ・先生バンドの結成

図工

- ・道具のシェア、廃材のシェア
- ・材料ハンティングの日がある
- ・季節毎にものづくりワークショップ
- ・剪定後の枝葉でリースづくり
- ・作ってほしいもののリクエストボード
- ・日工大生によるPC修理、レクチャー
- ・町内のアーティストとコラボ
- ・卒業生の記念品づくり
- ・技術の伝承、発表の機会

家庭科

- ・世代、性別に関係ない料理教室
- ・かまどベンチで料理体験（防災）
- ・郷土料理から他の地域を知る
- ・生ごみをコンポストにして花壇の肥料
- ・家庭科室と図工室を行き来しやすく（作った家具で料理を食べる）
- ・子どもの洋服をアップサイクル

保健

- ・悩みに応じた本を紹介
- ・保健室ではない保健スペース
- ・学校の中の逃げ場所、心の避難場所
- ・気持ちを落ち着ける場所
- ・お昼寝できる場所、頭を休める場所
- ・ざっくばらんに相談できる場所
- ・健康づくり、運動スペース

校庭

- ・プレーパーク（穴を掘って、水を流せて、火も使える自由な場所）
- ・木登り、クライミング、ボルダリング
- ・屋外調理キャンプ（防災活動にもなる）
- ・かまどベンチやマンホールトイレ
- ・屋上で星空観察
- ・大人も楽しめて本気で遊べる場所
- ・夏にはかえでを囲んで盆踊り
- ・雨が降っても走り回って遊べるスペース

学童保育

- ・学童に事務室があると日中貸出せるかも（ママ友会、子育てサロンなど）
- ・学童保育所の一時的な利用ができるとうさそう
- ・地域の人に知識や技術を教えてもらえる
- ・ご近所さんの見守りの中で散歩や買い物

多目的スペース

- ・調理室が近くにあるイベントと併用
- ・大人数や少人数の活動に対応できるようにスペースを区切れる

フリースペース

- ・誰でも来られてずっといられる場所
- ・移動式の間仕切りで空間の大小をつくる
- ・地域の情報を発信するスペース
- ・子どもたちに教えてくれる人をマッチングする場所
- ・出店者が日替わりのカフェ
- ・セキュリティで守るところは会員制

◇第3回 建築家さんの考え、聞かせて、聞かせて

これまでの話し合いを踏まえて、須賀小学校地域拠点施設の諸室関係や諸室のゾーニング・配置などの提案内容を紹介しました。さらにワークの時間には、新しい施設を使っていく地域住民の目線で、部屋同士の関係やスペースについて話し合い、意見交換を行いました。

地域住民の他に、須賀小学校の教職員の方や須賀小学校の児童からも数名の参加があり、地域住民からの意見に加えて、実際の学校生活を考えた意見も交えながら話し合うことができました。

- ・プログラム：
 - ・前回のふりかえり
 - ・建築家の考え、聞かせて、聞かせて
 - ・ワーク「8つのテーマに分かれて話し合おう！」
- ・実施日時：2023年12月16日（土）14:00～16:30
- ・参加者：56名



図書室

- 施設内のどこでも本が読める
- 特別教室に関係する本が近くにある
- 縁側で食事をしつつ読書
- 自由に楽器を試せる、音楽を視聴できる
- 点字や外国語に対応
- 色々な高さの椅子がある（多世代に対応）

音楽室

- 1ヶ所でも防音の場所
- 段階的な防音と開放
- フリースペースに開く音楽室
- 人が通るとBGMが流れる
- 音楽室で演奏している様子が見えるように防音のガラス張り
- どんぐりピアノを置く場所
- いいスピーカーや音響設備の充実
- ウッドデッキステージ

図工室

- 工具を使った実例作品を展示
- 展示物は分散配置で施設に統一感
- 大きい紙を広げて絵を描けるスペース
- 特別教室の活動が吹抜け越しに見えたら楽しそう
- 特別教室が職員室寄りだと使いやすい
- きれいに分別しやすい廃材棚

家庭科室

- 調理と被服は衛生面のために分ける（被服と図工は同じ場所で作業）
- 自由にミシンが使える
- かまどベンチ（防災）
- 子どもも大人も両方使いやすい家具がいいけど、大きすぎないもので柔軟な対応も必要
- 夏休みに家庭科室を使って調理できるとよい

学童保育所

- 学童保育所に通っていない子も利用できるスペース
- 学童保育所と地域施設は近い方が交流しやすい
- 学童保育所に通いながら習い事ができる
- 地域のロビーで迎えの保護者が待つ
- 見通しよくつくって見守りやすく
- ビオトープを学童保育所の子どもが管理
- 家庭科室が近くにあったら地域のボランティアの方におやつをつくってもらえる

地域施設

- ガラス張りで活動の様子が見える
- 多目的ホールは外とフラットな感じで行なげる
- プロジェクターが使える大きな白い壁
- ホールに畳を敷いたりしまえたり
- 駐車場から近い方がいい
- 部屋を分割できる（災害時にも避難所を分けられる）
- 畳の部屋だと座れない（広い洋室に椅子の方がよいかも）

建築家に挑戦

- 低学年の教室は1階に
- 給食の配膳動線（給食時間の確保）
- 小さな子どもと遊べるスペース
- かえでの木の下で休憩するスペース
- 学童保育所は駐車場に近い方がよい
- 夏は涼しく冬は暖かい設計に
- 音楽室を小ホールのように
- 中学校側からのエントランスも
- 家庭科室の近くに菜園デッキ
- 特別教室はよく使う学年の近くに

その他

- 天候を気にせずに使える空間
- モルックができる場所

○議員ワークショップ

議員の方々から新しい地域拠点施設について、ご意見をいただく場を設けました。さらに、新しい地域拠点施設でどのような活動が生まれるとよいかについても話し合いました。

- プログラム：
 - 事例紹介（愛知県 新城市立作手小学校）
 - シンポジウムの報告
 - ワーク①「事業に期待すること・不安に思っていること」
 - ワーク②「地域住民のこんな活動があるといい…！」
- 実施日時：第1回：2023年10月5日（木）10:30～12:30
第2回：2023年10月19日（木）14:00～16:00
※同内容で2回に分けて実施
- 参加者：11名（第1回4名、第2回7名）



●期待すること ●不安なこと

施設全体

- 先端技術の導入
- 須賀・和戸の新たなシンボルに
- 使い勝手がよくなる
- 大人と子どもが一緒に使う
(調理台などの家具の大きさ)

小学校

- 卒業にした後も集まれる場所
- 明るい校舎
- 明るい図書室
- みんなが使える図書室
- きれいなトイレ
- 広い校庭
- 使いやすい校庭
- 児童数が減少した場合の空き教室の活用
- 将来に改造できるような対応
- 大通りに面して校門を
- バスの寄り付き、ロータリー
- 敷地が狭い
- かえでとかやの木の今後

地域コミュニティ施設

- 地域活動の拠点
- 一時的ではない継続的な活動が生まれる
場となること
- 気軽に飲食できるスペース
- 地域のつながりの活性化

防犯・セキュリティ

- 不審者対応をどうする

交流

- 子どもと地域の交流
- 人間関係が豊かになる
- 地域の人顔が分かるようになるのでは
- 地域の一体感を生み出せると
- 年齢の枠を越えた交流
- 子どもがのびのびできるか

敷地

- 狭い敷地の中でどう作れるか

駐車場

- 駐車場のスペース

コスト

- 公共施設の集約化
- 財源、予算
- 維持費

防災

-
- 災害時の機能性
- 風水害による浸水
- 災害時の車両進入
- 避難スペース

中学校

- 小学校と中学校の連携
- 中学校敷地の今後

期待する活動

- ・子どもと地域の合唱祭
- ・須賀小マルシェ
- ・子どものイベントを見学できる
- ・映画会
- ・国際交流イベント
- ・地域のイベント拠点
- ・地域の運動会
- ・子どもたちのキャンプ体験
- ・子どものプレイパーク
- ・子ども食堂
- ・世界の料理を味わう
- ・歌や楽器の小さな発表の場
- ・地域と児童の学び合い(語学、趣味、農業)
- ・誰もの居場所
- ・地域サロン

○教職員ワークショップ

小学校と地域施設が複合化するにあたって、教育のプロの視点で、児童の教育環境のこと、学校運営のことについて意見交換を行いました。また、学校側の視点から新しい地域拠点施設の可能性を話し合うために教職員ワークショップを実施しました。

◇第1回

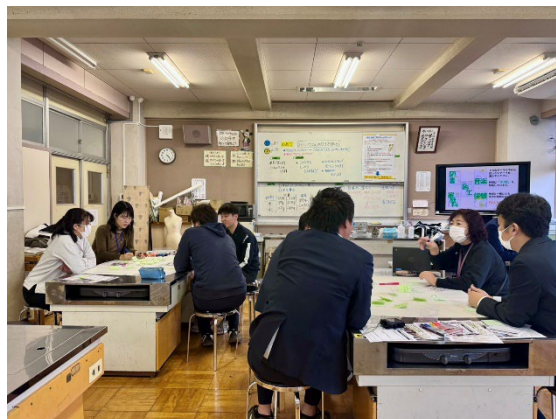
- ・プログラム：ワーク「事業に期待すること・不安に思っていること」
- ・実施日時：2023年11月16日（木）15:45～16:30
- ・参加者：20名

◇第2回

- ・プログラム：ワーク「5つのテーマに分かれて話し合おう！」
- ・実施日時：2023年11月30日（木）15:45～16:30
- ・参加者：16名

◇第3回

- ・プログラム：ワーク「基本計画原案について気になるところ」
- ・実施日時：2024年1月23日（火）15:45～16:45
- ・参加者：18名



◇第1回 教職員ワークショップ

校舎

- 明るく開放的な学習環境
- 学年や学級で集まれる場所
- 広い廊下や各学年用のオープンスペース
- 図書の実、広々とした図書室
- 空間の柔軟性
- 広くて使いやすい軽運動スペース
- きれいなトイレ
- 準備室の充実
- 機能的な校舎
- 学習しやすく移動しやすい構造・動線
- 広い職員室
- バリアフリー
- オンライン会議用のスペース
- 保護者の送り迎えロータリー
- 四季の変化や自然を感じられる学校
- 調理用と被服用で分れた家庭科室
- ランドセルロッカーなどの収納にゆとり
- 建物内の動線
- 複合化により学習環境へ悪影響がないか
- 部屋やスペースを地域と共有すると自由に使えなくなるのか
- 急な予定変更により地域に迷惑をかける可能性があるそう

校庭

- 広い校庭と豊富な遊具
- 外周のマラソンコース
- 校庭が狭くならないか

共有のしくみ

- 特別教科の時間割との兼ね合い
- 学校と地域の場所の分け方
- 責任の所在をどこにするのか

管理・運営

- 共有して使えるものが増える
- 図工などの材料提供（地域で不要なもの）
- 地域の方の力をかりて環境整備
- 備品管理や管理区分

● 期待すること ● 不安なこと

交流

- 異年齢交流の増加
- 多様な人と関わる機会
- 休み時間の充実（ワークショップに参加）
- 学校と地域の良い関係
- 開かれた学校づくり
- 地域行事に参加しやすい
- 須賀小に通いたい児童が増える
- 地域ボランティアの充実（知識・技術）
- 給食を食べられるカフェ
- あいさつが気軽に飛び交う雰囲気づくり
- 子どもの成長を放課後も卒業後も見守ることができる
- 学校と地域の連携

防犯・セキュリティ

- 地域の方の協力で安全が図れる環境
- 教職員の負担が増えそう
- 子どもと教職員のプライバシー
- 不特定多数の人との交流、出入り
- 休日利用時のセキュリティ
- 不審者やトラブルへの対応

教育

- 外国語教育の充実
- 掲示や展示を意識した掲示物や作品制作
- 社会に開かれた教育課程

ICT

- 最新のICT環境
- あらゆるものの電子化
- 新しいテクノロジーへの対応

駐車場

- 狭くならないか

建設工事

- 工事中の授業への影響（騒音・振動）
- 建替え中の運動スペースの確保
- 引越し

◇第2回 教職員ワークショップ

音楽

- ・音楽ホール
- ・地域のサロン
- ・ジャズやクラシックのコンサートが聴ける
- ・屋外ステージ
- ・実技演習や発表ができるミニステージ
- ・ダンスができるスペース
- ・演奏や演奏を聴き直せる録音設備
- ・ヘッドフォンで好きな音楽が聴ける
- ・音楽室と外のステージがつながっている
- ・防音設備のあるスタジオ
- ・どんぐりピアノをディスプレイ
- ・自由に楽器に触れられて親しめる

図書

- ・夜の自習スペース
- ・地域へ図書の貸出
- ・地域へ開放するなら本を共有している意識づくりが必要
- ・地域の古本を置く
- ・地域と学校で本をオススメし合う
- ・紙芝居で読み聞かせ
- ・子育て世代と共有するスペース
- ・共有のPCやタブレットがあるスペース
- ・専門的なレファレンス
- ・CD音楽を聴けるスペース
- ・デジタル図書
- ・いろいろな体勢で本を読める
- ・屋外でも本を読める
- ・靴を脱いで上がる畳のスペース
- ・中高生によるビブリオバトルを小学生の子どもたちが見学
- ・図書館のイベントを小学校で（お話し会、上映会、謎解きなど）
- ・自由な時間で図書室にいける

家庭科

- ・地域の方から昔の遊びを教えてもらう
- ・お直し先生（帽子の紐を直してもらえる）
- ・作りたいものを気軽に教えてもらう場所
- ・地域や世代の味を受け継ぐ調理実習
- ・高学年だけでなく、低・中学年も利用する機会を
- ・大人向けの調理実習
- ・子ども食堂で地域の方と調理・試食
- ・地域のボランティアの方から授業のサポート（調理実習の準備）
- ・放課後に子どもたちが集まっておやつを食べたり食事したりする場所

図工

- ・地域の廃材など図工の授業で使えるものが集まる場所
- ・常時展示されているギャラリースペース
- ・陶芸教室（地域の利用→授業で活用→交流できそう）
- ・地域にいるいろんな分野の師匠や地域のボランティアの方からのサポート
- ・焼き物ができる場所
- ・おもちゃドクターによる教材の修理
- ・土日に大人向けのワークショップ
- ・道具が使いやすい収納配置
- ・移動可能な作業台
- ・1階に配置して外にも出られる教室

保健

- ・身近な健康相談の窓口
- ・曜日で専門の違う人が来る
- ・保健分野についてボランティア授業
- ・保健室の近くに少し広い健康に関するオープンスペース（学校と地域で共有）
- ・大人の体力テスト
- ・地域のボランティアの方に子どもの体力テストや身体測定を手伝ってもらう
- ・ボランティアの人材管理を地域施設でしてくれると助かる

◇第3回 教職員ワークショップ

配置

- 配膳室はどの教室からもアクセスしやすく
- 広い配膳スペース、ワゴン置き場
- 教室の日当たり
- 放送室は職員室の近くにあって、校庭に面していた方がいい
- 放送室は児童がよく使うため、教室の近くにあった方がよさそう
- 職員室はどの教室からも近い方がいい
- 学童は地域コミュニティ施設の近くにあると送迎が楽そう
- 職員室の近くに小さな会議室
- 低学年の教室は1階にあった方がいい
- 普通教室に通えない子どものために保健室の近くに相談室があるといい
- 校内に畑があるといい

動線

- 昇降口の場所
- どの教室からも子どもたちが出入りしやすい昇降口の位置や動線
- 回廊

校庭

- かえでの木が移動できれば校庭が広くなるのか
- 既存の樹木はどうなるのか

特別教室の共有

- 特別教室は授業時間以外にも準備のために使うことがあるので、日中に地域と共有するのは難しそう

- 期待すること
- 気になること

運営管理

- 図書室を地域に開放すると誰がどのように管理するのか
- かえでの落葉による清掃、維持管理

交流

- プライバシーと地域交流の問題

バリアフリー

- 全館バリアフリー（現在は渡り廊下が多くバリアが多い）

駐車場・アクセス

- 来客用の出入口や駐車スペース
- 職員用の駐車場からの動線や距離
- 敷地内の駐車場を外へ移動させて校庭に200mトラックを

その他

- 郷土資料室ではなく郷土資料を展示するスペースにした方がよさそう
- 敷地の外周をまわるウォーキングコース
- みんなが使いたくなるおしゃれな校舎

○公民館利用団体ヒアリング

公民館利用団体の代表者に集ってもらい、活動の時間帯、曜日、活動内容について詳しくお話を伺いました。現在の和戸公民館のいいところや、改善した方がいいところ、新しい市域拠点施設に期待することについても伺いました。

- 実施日時 : 第1・2回:2023年12月13日(水) 10:00~11:30、13:30~15:00
第3・4回:2023年12月14日(木) 10:00~11:30、13:30~15:00
※同内容で4回に分けて実施
- 参加者 : 16名(第1回 3名、第2回 4名、第3回 5名、第4回 4名)



地域コミュニティ施設へ期待すること

- 公民館の2階にある部屋は階段で上がることが大変だから、1階にあるといい
- 活動の後に集まれるお茶スペース
- 更衣室があるといい
- 雨でも活動がしやすいとよさそう
- 音響や照明設備があるとよさそう
- お年寄りに優しい施設になるといい
- 授乳スペースがあるとよさそう
- 休憩に立ち寄りやすい場所になるといい
- ステージのようなスペース、少し高くて舞台ようになる場所
- 荷物を置けるスペース
- 腰掛けられるスペース
- 机やいすの収納スペース
- スペースを分割して借りられるようになるといい
- 多目的ホールでも軽運動ができるといい
- 現状の部屋の広さで問題なさそう
- 音や振動の問題がなくなるといい
(楽器の音、運動の音)
- 扉をあけたら中と外が一緒に使えるようになるといい
- 扉をガラス張りにするのもよさそう
- 床が滑らないといい
- 部屋を明るくしたり暗くしたりできるように (自然光、照明)
- 目標となる場所の一つに
- 融通が利くユーティリティルーム
(家具が移動できて広く使える)
- 一人でも時間をつぶせる場所
- 外から活動が見られないことも大事
- PCやタブレットのサポート
- 平日は高齢者の利用が多い
- 図工室で絵を描いたりものづくりしたり

交流

- 踊りやヨガを学校に教えに行きたい
- 地域活動を子どもがお手伝い
- 子どもも大人も活動が見える施設
- 季節を感じられる屋外スペース
- 活動成果の展示スペース

アクセス

- バスの便がよくなるといい
- バスが施設の近くに停まるようになるといい
- アクセスしやすさの課題

駐車場

- 駐車場は道路沿いに
- 駐車場は施設の近くにあるといい
- 車イス利用者は駐車場を予約できるルールがあるとよさそう
- 駐車場より建物を大事に
- 駐車場が足りない時もある
- 駐車場から遠くても運動になるからよい

管理・運営

- 掃除のルールはどうする

○学童保育所ヒアリング

かえで児童クラブの支援員の方々と父母会の方々に集ってもらい、新しい地域拠点施設における学童保育所のあり方についてお話を伺いました。

- 実施日時 : 2023年12月17日(日) 10:00~12:00
- 参加者 : 8名



学童保育所

- 家ではできない遊びができるといい（大人の目がある中で）
- 学年によって学童保育の時間中にやりたいことが違う（遊び、宿題など）
- 子どもが活動を選べるようになるといい
- 学童保育所の音や声が学校の授業の邪魔にならないように
- 学童の動線（靴の履き替え場所など）
- 遊具の収納場所から出し入れがしやすくなるといい
- 学童の子どもと学童以外の子どもが一緒に遊べるようになるるとよさそう

学習環境

- 授業時間以外の学び、自由な学びができる場所になれば
- 科目に合わせた図書テーマ配架ができるといい
- 教材がすぐ近くにあるといい
- 学校にない楽器が地域施設にあると教材になりそう

子どもの居場所・遊び場

- 大人数が苦手な子どももいるため、居場所が選べるといい
- 動から静の活動の受け皿
- 大きな場所と小さな場所
- 階段下にテンのスペース
- 子どもが安心していられる場所
- 進修館のロビーのようなイメージ
- 垂直方向の遊びができるといいな（ボルダリングなど）
- 立体的な遊びや仕掛け
- 子どもが自由に遊べて、自立性につながれば

送迎

- 施設内で子どもの居場所を知らせる「子どもはここにいますボード」があるとよさそう
- 館内放送で子どもを呼ぶ（地域コミュニティスペースで遊んでいる子どもが学童保育所へ戻ってほしいとき）
- 学童保育所が使える放送設備があるとよさそう

音楽

- 防音の音楽スタジオがあれば、気軽に大きな音が出せる（ドラムの練習など）
- 家に眠っている楽器や健康器具を発掘してみんなで共有

管理・運営

- どのようなルールで管理していくか
- 安全性に配慮した出入口に
- 規制が多くなりすぎてもよくない
- 複合化した時に学童の責任範囲はどこまでか

地域コミュニティ施設

- 親同士の交流の場になりそう
- 子どもと地域の大人との交流（将棋の相手になるなど）
- 地域の活動が近くで見えることは大事
- 地域の廃材が置けるリサイクルスペース（授業の材料、おもちゃ、衣服、体操着など）

施設について・配置について

- 特徴ある設えは大事
- 調理室が近くにあるといい（かまどや火が使える場所）

○須賀小学校地域拠点施設検討委員会

多様な活動主体から集まった委員の方と、多角的に新しい地域拠点施設について意見交換を行いました。

◇第4回

- ・実施日時：2023年8月17日（木）19:00～21:00
- ・内容：基本計画策定に向けた今年度の取組について

◇第5回

- ・実施日時：2023年12月14日（木）19:00～21:00
- ・内容：基本計画の概案について

◇第6回

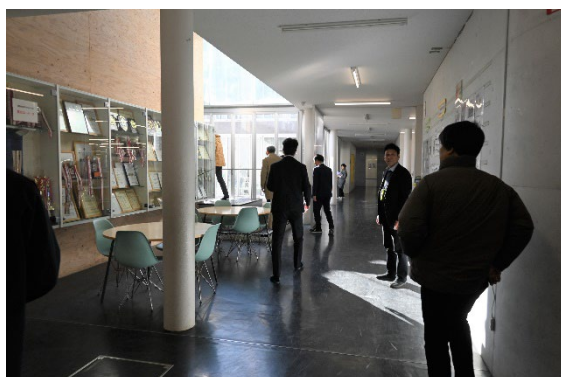
- ・実施日時：2024年1月23日（火）19:00～21:00
- ・内容：基本計画の概案について（※ワークショップ形式で実施）

◇先進事例視察

- ・実施日時：2024年1月24日（水）10:00～17:30
- ・視察先：足立区あやセンター ぐるぐる、足立区立綾瀬小学校地域開放図書館、流山市立おおたかの森小中学校

◇第7回

- ・実施日時：2024年2月15日（木）19:00～21:00
- ・内容：基本計画の素案について



◇第6回 検討委員会

小学校

- 体育館が敷地内にあるといい
- 小学校と中学校の間に遊具スペースがあると交流しやすそう
- 校庭の広さ
- 朝に自由に遊べる
- 登下校、休憩中、放課後に子どもの様子を職員室から見たい
- 休憩時間にすぐ校庭へ遊びに出たいかも
- 2階からの避難経路
- 校庭のデザイン
- 放課後も遊べる場所か
- 特別支援教室は2学級で足りるか
- 放送室の位置
- PTA室は専有か共有どうする
- 照明なしで、ある程度授業できる環境
- 1学年2クラスで足りるか
- 可変性を持たせて、使いながら考える
- 校庭が狭い
- 小学生の移動が大変
- 体育館を既存利用すれば校庭が広がる
- エレベータは配膳室の近くがいい
- 配膳室は外部から近いところがいい

地域コミュニティ施設

- 中央エリアまでいかななくても本が借りられるといい
- キッチンカーで職業体験
- 芝生に座って食べたり話したり
- イベントがなくても来られる場所
- ガラス張りで活動が地域に見える
- 活動場所が2階にあると大変
- 活動をするための道具を車で持っていく時もある
- 地域コミュニティ施設の方からも図書室が近いと行きやすい

- 期待すること ● 気になること

学童保育所

- 中庭に学童の入口があるのはどうか
- 学童保育の子どもたちの動線
- 靴の履き替えをどうするか
- 今学童保育所がある場所はどうか

駐車場・アクセス

- 敷地の外に駐車場があれば校内は校庭を広くできるか
- 循環バスの活用
- 来客の駐車場はどうするか
- 南東側の道路が結構混む

和戸駅周辺の活性化

- 和戸駅の活性化と連携できるといい
- 和戸駅の西側にも改札ができれば
- 和戸地域をどうしたいか
- 駅に近い方にロータリーや駐車場があった方がよさそう

防災

- 家庭科室が外から使いやすいと災害時にも活躍しそう
- 災害時の拠点になるから平時から利用できるようにした方がいい
- 日工大が浸水したら避難できない人がたくさん来るかも

中学校

- 中学生の利用も視野に
- 中学生の動線

その他

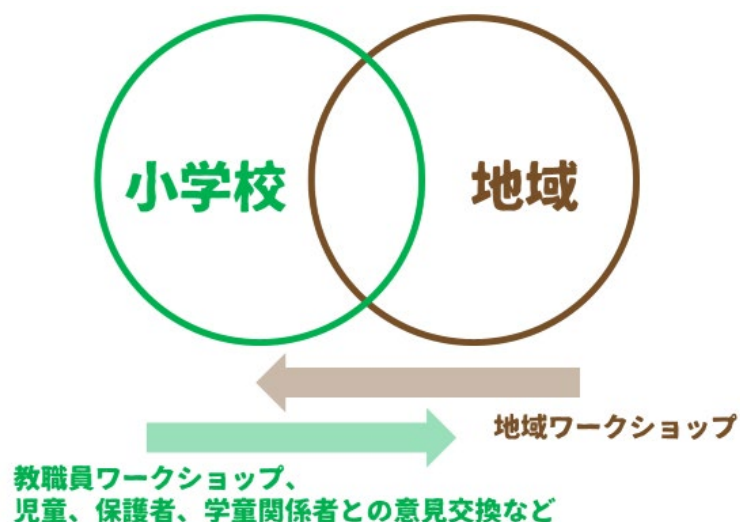
- スケルトンインフィル

【基本計画で行ったワークショップについて】

本計画のワークショップでは参加者の声の聴き出し方に独自性があります。須賀小学校に残る「どんぐりピアノ」のエピソードになぞらえて、自分の“どんぐり（資源）”と町の“どんぐり（資源）”を拾い合わせ、新たな“ピアノ（未来）”を創っていくことを考えました。声を聴いていくうちに、自分の“どんぐり”と誰かの“どんぐり”とがコラボレーションし始めることもあり、未来の須賀小地域拠点施設で実際に行われるであろう活動につながる意見や想いを伺い知ることができました。

話し合いは地域側の視点と小学校側の視点との両側から進めていき、互いが少しずつ重なりあうように、機能や施設で共有できる部分について話を深堀りしていきました。現在の活動、これからしてみたい活動について参加者に伺っていくと、地域にとって小学校にある特別教室の需要が高そうだとということも分かってきました。小学校と公民館、学童保育所の合築するにあたり、積極的に共有室を設けられそうだとこの可能性も見えてきました。

<「どんぐりとピアノ はじまり、はじまり会議」の全体像>



【ワークショップの成果より抜粋】



「どんぐりピアノ」とは…

須賀小学校には「どんぐりピアノ」という、子どもたちがどんぐりを集めて購入したピアノがあります。

戦後の昭和 24 年に、子どもたちは憧れのピアノを自分たちで買おうと奮起し、どんぐりやひまわりの種、イナゴを集めてお金に替え、稼いだお金を貯金しました。この活動が地域の大人たちの心を動かし、資金調達に成功しました。念願のピアノを手に入れ、須賀小学校では当時いちはやくピアノ伴奏で歌を歌うことができました。昭和 25 年 1 月 15 日の埼玉新聞にその当時の活動内容が取り上げられています。

このことから「どんぐりピアノ」と名付けられ、今もなお須賀小学校に残っています。現在は役目を終えて、校舎内の閲覧室で児童を見守っています。

＜「新みやしろ郷土かるた」より＞



＜須賀小学校にあるどんぐりピアノ＞

